十勝毎日新聞
2005年（平成17年）12月6日（火）（第3面）

最新の研究講演

20人参加し「バイオ・ステージ」

道内のバイオテクノロジーの最前線を学んだ「北海道バイオ・ステージ」

第21回「北海道バイオ・ステージ」（同実行委主催）が5日午後1時半から帯広東急インで開かれた。十勝管内の最前線のバイオテクノロジー研究を各研究者が講演。参加者はバイオ研究について認識を新たにした。

同実行委はNPO法人北海道バイオ産業振興協会、財団法人北海道科学技術総合振興センターなどで構成。バイオテクノロジー研究の最前線を学び、研究者が今後の方向性を見いだすのに役立てようと年2回こうしたイベントを開いている。

この日は公的研究機関から研究者ら約20人が出席。同会の富田房男会長が「バイオ産業は北海道の最も大事な産業。振興すべき道を探りたい」とあいさつした。

道立十勝圏地域食品加工技術センターの佐山晃司コーディネーターが文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業「機能性を重視した十勝農畜産物の高付加価値化に関する技術開発」を紹介。「食品機能性を明らかにすることで高付加価値化を図る」と述べ、チーズやナガイモで進めている研究手法を紹介した。

このほか、帯広畜産大学畜産科学科の福島道弘助教授がジャガイモの食品機能性を、日本甜菜製糖総合研究所の佐藤忠主席研究員がオリゴ糖をテーマにそれぞれ講演。参加者は十勝で進む研究に熱心に聞き入っていた。

（田島工幸）